

<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度区学力テストより全学年、国語・数学において、目標値や全国平均を上回っている。</li> <li>特に、第3学年の数学は、「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」は、目標値に対して12ポイント以上の数値である。</li> <li>第2学年の国語は、すべての観点において6～9ポイント目標値を上回る結果となった。</li> <li>第2学年の社会は、3つの観点で目標値と全国平均を超えている。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校までに獲得しなければならない学力が身に付いていないために、中学校の学習がでない生徒がいる。</li> <li>学ぶ意欲や基礎学力が十分でない生徒がいる。</li> <li>指導には素直に従うが、知識欲や好奇心に欠け、学習意欲に欠ける生徒がいる。</li> <li>教員も保護者も家庭学習の定着に課題があると感じている。</li> <li>問題解決学習の指導から、クリティカルシンキング、クリティカルリーディングの流れにつなげ、思考力、判断力、発表力を付ける必要がある。</li> </ul>	<p><b>目指す姿</b></p> <p>理科においては、科学における最新のニュースや身近な情報を紹介し、ICTを活用した視覚に訴える授業や実体験の学習を増やす。また、夏休みの課題や学習教室を通して興味・関心をもたせる。</p> <p>英語においては、言語活動の場面を多く設定し、コミュニケーション能力の向上に努める。特に単語や文を正しく書くことの能力を向上させるために、表現(書くこと)を意識した授業の工夫が必要である。</p>
--	--	--

<p><b>生活指導の指導の重点</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の自己実現と望ましい学級集団作り</li> <li>②授業規律の確立した愛情ある厳しさ</li> <li>③家庭・地域と連携した基本的生活習慣の向上</li> <li>④不登校解消を目指す教育相談活動及び外部機関との連携</li> <li>⑤「いじめ」及び非行を未然に防ぎゼロトランス</li> <li>⑥問題行動の発生時には即時のチーム対応</li> <li>⑦教科指導と連携した非行防止学習</li> <li>⑧保護者と連携したSNS等への情報モラル指導</li> <li>⑨「安全教育プログラム」を活用した危険予知・回避指導</li> <li>⑩生徒自らが正しく考え行動できる判断力の育成</li> </ol>	<p><b>学力向上にかかわる学校経営方針</b></p> <p>チーム堅中の創生          学校、生徒・保護者、地域をひとつのチームとして組織し、目標達成に向けてともに努力するチームを土台とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学校は、夢をかかなるための道場」とし、夢の実現に向けて師弟同行をモットーとする。</li> <li>2 個々の生徒・保護者への対応を、教師集団が一丸となっていく。</li> <li>3 漢字・計算・スペリング・地理コンテストを実施し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>4 成績上位者や各種検定の成績優秀者を表彰し、切磋琢磨する雰囲気を作る。</li> <li>5 キャリア教育を充実させ、自己の夢に向かい努力し、</li> </ol>	<p><b>道徳教育の指導の重点</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全教員協力による道徳教育の推進</li> <li>②教師と生徒がともに考え、共感できる指導の実践</li> <li>③命に関わる学習の積極的な推進</li> <li>④他者へのいたわりの心育成</li> <li>⑤保護者や地域への啓発及び小学校との連続性の重視</li> <li>⑥学校生活全体の中から、心に響く教材開発の推進</li> <li>⑦あらゆる機会を通して、道徳的な心身の育成</li> </ol>
---	---	--

<p><b>進路指導の指導の重点</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自己理解を深め、自らの長所を生かす態度の育成</li> <li>②キャリア教育を充実させ、自ら主体的に進路を選択できる能力の育成</li> <li>③生き方学習を充実させ、望ましい勤労観・職業観の育成</li> <li>④企業や上級学校と連携した啓発的な学習体験の実施</li> <li>⑤職業体験の効果的な実施</li> <li>⑥発達段階に応じたキャリア指導の実践</li> <li>⑦個に応じた資料・情報の収集及び提供・活用の促進</li> <li>⑧地域人材を活用した、パワーアップ面接練習会の実施</li> </ol>	<p><b>機能する PDCA cycle</b></p>	<p><b>特別活動の指導の重点</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自主的で望ましい集団活動の実現</li> <li>②生徒が主体的・意欲的に活動する学校行事</li> <li>③生徒自身の手で「いじめ」のない学校づくりの推進</li> <li>④情報モラル教育の徹底</li> <li>⑤保護者や地域と連携した「ボランティア活動」の実施</li> <li>⑥外部講師による学習や体験的な学習の推進</li> <li>⑦生徒一人一人の個性が集団の中で生かせる取組の工夫</li> <li>⑧食に関する指導の目標、及び食物アレルギー対応を含めた全体計画等に基づき、食育の実践</li> </ol>
---	-------------------------------	--

<p><b>知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス</b></p>	<p><b>家庭との連携を図った学習習慣の確立</b></p>	<p><b>改善策</b></p>
---------------------------------------	---------------------------------	-------------------

<p>【国語】自分で考える発問に対する苦手意識をもっている生徒が多い。少人数のグループになると、自分の意見をよく発表できている。また、他の人の意見についてもよく聞くことができる。</p>	<p>【国語】宿題は提出はするが、内容的に不十分で再提出になる生徒が多い。漢字や文法などは多くの生徒が家庭学習として取り組んでいて、提出状況も非常に良好であるが、定着にいたらない生徒が少なからずいる。</p>	<p>【国語】グループ学習、小テスト、作文指導に取り組み、入試頻出漢字に取り組み、毎回授業で小テストを実施する。正答率の低かった問題は、再度出題する。古典の取り組みは、苦手意識をもたせないよう、導入でフラッシュカードなどの視覚教材を取り入れる。</p>
<p>【社会】社会科に関する既存の知識が非常に少ない意欲をもち、きちんとした態度で授業を受けている生徒が多い。</p>	<p>【社会】1学年は、家庭学習が定着していない。プリントやワーク等の宿題も、7割程度しか指示通りに行っていない。2学年以降は、家庭学習の習慣は定着している。</p>	<p>【社会】毎時、身近な社会的事象を取り上げ、興味・関心を高めるところから始める。また、単元ごと的小テストを実施し、習熟度の低い生徒に関しては再テストなどを実施し、知識の定着を図る。2月の入試に向けては放課後に、週2回を目安に補習教室を実施する。</p>
<p>【数学】習熟度別基礎クラスはとも熱心に取り組む、力が付いてきた。発展クラスは多様な考え方が出てくる。基礎の生徒は小学校の内容を復習する場面が多い。意欲的に取り組んでいて発言も多い。</p>	<p>【数学】授業までの宿題をやりきれない生徒が数名いる。(特に基礎クラス)定期考査で集める課題の提出状況はともよい。授業で出した宿題は忘れる生徒が多い。定期考査で集める課題の提出状況はともよい。</p>	<p>【数学】9月からは毎週1回小テストを実施し、合格点に達しない生徒に対して、放課後に補習教室を行う。2月の私立一般入試以降から都立一次・分割前期入試まで、放課後に補習教室を実施する。都立入試で大問1とその他の大問1・2を正答し、70点以上取ることを目標にする。</p>
<p>【理科】科学に対する興味関心はとも高いが、その反面、実験の技能や基礎的な知識が少なく、発表や解答に窮する場面が多々ある。実験観察は興味をもって楽しく活動する。しかし、考察では自分の言葉でわかったことをまとめたり、法則性を見つけたりすることは難しい。発表や話し合い活動では、知識が定着した一部の生徒はよく発言をする。</p>	<p>【理科】理科における家庭学習の習慣がほとんどなく、家庭での課題について消極的な生徒が多数いた。しかし、宿題に対してはまじめな面があり、提出状況は悪くはない。内容もじっくり考えてやってくる生徒が多い。実験のレポートやノートの提出は概ねよい。</p>	<p>【理科】小テストを実施する。小テストについては、それぞれの基準点に達するまで再テストを行う。グラフ作成では、目盛りの取り方、線の引き方など、丁寧に指導し、放課後に個別指導に取り組む。また、ICTを活用し、動画や画像によって視覚的にとらえられるようにする。</p>
<p>【英語】活発に発言する生徒が多い。しかし、理解や作業に個人差が大きいので、一斉の中で個別対応に配慮が必要である。プリントやドリルなどに熱心に取り組む。ペーパーなどは意欲的に取り組んでいるが、その場で与えられた課題については遂行できても、内容理解にどこまで繋がっているか不安が残るところがある。</p>	<p>【英語】提出状況はばらつきがあり、理解度が低い生徒ほど、提出率が下がる。家庭学習については、予習・復習などを中心にやや意欲をもち始め、年度当初に比べて少しずつ増えている。しかし、内容を理解しないまま、単語や文章を書き写すなどの様子もあり、綴りを間違えていることがある。</p>	<p>【英語】会話のセクションをペアやグループで毎回音読させ、音読を宿題に課し、発表させる。さらに、英語のデクテーションを行い、リスニング力の強化とともに正確に英語を書く力を向上させることを図る。また、単元ごとに単語テスト、予備テストを実施する。長文読解では、絵本など頼みやすい教材に取り組む。</p>
<p>【音楽】全体的に授業に前向きに取り組んでいる。小学校によって、音楽用語等の基礎知識がバラバラであり、足並みが揃わない。鑑賞曲の内容について、音楽の諸要素を用いて感想を述べたり、文章に置き換えたりすることが苦手である。準備段階の柔軟体操や発声練習を通して、「伸びやかな声」を出そうとする雰囲気を作ろうとしている。</p>	<p>【音楽】合唱祭に向け、パート別のCDの作成、ワークシートの提出徹底などの取り組みを、随時保護者に伝える。</p>	<p>【音楽】毎時間、音楽記号や速度記号の復習。授業の導入時に、発声練習や呼吸法の技能向上。合唱表現を工夫するために、パートリーダーや指揮者・伴奏者らが、その時間の評価をする。日本の古典音楽や世界の諸民族の音楽に触れさせ、多様な文化に触れる。</p>
<p>【美術】緊張感をもって、前向きに取り組むことのできる生徒が多い。長期的な作業になると、完成度や丁寧さにやや欠ける生徒がいる。独創的な制作のアイデアや発想の工夫を深めることが苦手である。技術面と理解力に二極化が見られ、個別指導が必要な生徒がいる。絵画表現において、筆や絵の具の扱い方、塗る順序や塗り方の技能が未熟な生徒がいる。試行錯誤を通して、発想や構想を深め、創意工夫をして作品をつくるのが苦手である。</p>	<p>【美術】授業で制作した生徒作品を文化祭で展示し、鑑賞してもらった。区展、都展などの案内、美術展の案内を配布し、興味関心をもってもらった。</p>	<p>【美術】進度の遅い生徒への対応として、放課後に補充を行う。鑑賞の授業の時間を定期考査前に2・3時間確保する。毎時間、優れた参考作品や生徒作品を掲示することで、興味関心や全体の完成度を高めていく。</p>
<p>【技術・家庭科】宿題の提出状況は学級によって違うものの、おおむね提出状況はよい。ほとんどの生徒が授業で行った知識が定着していないと感じた。作品の製作の技能はまだ行っていないので見ることができていないが、製図に関しては出来、不出来の差が激しく、問題の意図を理解していない生徒もみられた。わからないところを積極的に質問してくる生徒は多い。実技に関しては大いに意欲があるようで、製作実習に関してはほぼ意欲的に取り組んでいる。全体的に、コンピュータを使用した実習においてはほとんどの生徒がおおむね満足できる到達状況であった。</p>	<p>【技術・家庭科】自らの生活と関連付けた学習を行うため、家庭で調べてくるような課題も用いる。</p>	<p>【技術・家庭科】知識が定着できていない部分があるため、既習事項の復習テストを行う。毎回の授業でICT機器を活用して、その授業ごとの製作工程を明確に生徒に示す。座学への関心・意欲を向上させるために、それぞれの分野が終了するたびに、それぞれが意見を出し合い、自分の考えを発表する機会を設け、問題解決的な学習をする要点を明確に授業の最初に示す。</p>
<p>【保健体育】運動することは嫌いではないのだが、技能的にはそれほど高くなく、知識をしっかりと学習することがさらに技能の上達に繋がると理解できない生徒が少なくない。走力、瞬発力が弱い。自分自身の運動能力を向上させようとしている。基礎的な知識、技能が不十分な生徒が若干いる。知識を活用して、自分の運動能力を向上させる力はまだ低い。</p>	<p>【保健体育】家庭生活の中で、体を使う家事を奨励したり、基礎トレーニングや柔軟運動への取組を呼びかける。また、栄養面や睡眠時間の確保も食育と関連付けて呼びかける。</p>	<p>【保健体育】個人的技能動作は映像機器を活用し、映像を本人に見せる回数多くする。保健分野、体育理論についてはワークシートを活用し基本的内容を明確に生徒に示す。座学への関心・意欲を向上させるために、それぞれの分野が終了するたびに、それぞれが意見を出し合い、自分の考えを発表する機会を設け、問題解決的な学習をする要点を明確に授業の最初に示す。</p>